

## 施策 2 2 7 : 地域と若者の未来を拓く高等教育機関の充実

### 1 県内高等教育機関卒業生の県内就職について

県民指標：県内高等教育機関卒業生の県内就職率

令和元年度 目標値 59.0% 実績値 48.1%  
目標達成状況 0.82

#### 【現状】

若者の県内定着を推進するため、県内高等教育機関（大学、短期大学、高等専門学校）の卒業生のうち県内に就職した者の割合を、令和元年度（令和2年3月卒業）は59.0%を目標に取り組みましたが、実績値は48.1%（速報値）と目標に達しておらず、若者の県内定着は厳しい状況となっています。

（県内高等教育機関の卒業生のうち就職者数3,164名、県内就職者数1,523名）

学生の就職活動の時点では、中京地域の経済が活況であり、近隣県の中には、本県以上に有効求人倍率が高水準で推移している県もあり、県内高等教育機関においても県外企業からの求人が多い傾向となっているため、県内就職率が伸び悩んだことが要因の一つと考えられます。

#### 【これまでの県の取組】

「高等教育コンソーシアムみえ」の取組

県内14の高等教育機関と県で構成する「高等教育コンソーシアムみえ」において、学生が三重への知識・愛着等を持てるよう開発した「食と観光実践」や「三重の歴史と文化」などの「三重を知る」共同授業を行っています。

（令和元年度：5高等教育機関の学生約230名が受講）

学生等への奨学金返還の支援

若者の県内定着を推進するため、県内の過疎地域など指定地域に居住すること等を条件に、大学等在学中に借りた奨学金の返還額の一部を助成しています。

（平成28年度から令和元年度までの4年間で49人を認定）

高等教育機関の取組支援

平成27年度から令和元年度までの5年間、三重大学が中心となって、国の補助事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」を活用し、地域への愛着や関心を高め、県内での就職につなげていく「三重創生ファンタジスタ」の養成取組を進めてきました。（県は22の企業・団体とともに事業協働機関として参画）

三重創生ファンタジスタ・・・「地域課題に対して深く関心を持ち、主体的に活躍する人材」のこと。

高等教育機関の魅力向上の取組への支援（県版COC）

県内高等教育機関が行う「県内高等学校からの入学者の増加に向けた取組」や「県内企業への就職支援」等、学生の県内定着に向けた新たな取組に対して、財政的な支援を行いました。（平成27年度から29年度までの3年間で、合計8機関9事業を支援）

なお、多くの事業では、補助期間終了後も継続して取組が行われています。

#### 【今後の取組】

「高等教育コンソーシアムみえ」において、これまでの取組を進めるとともに、新たに「三重創生ファンタジスタ」の養成取組を三重大学等から引き継ぎ、地域に活躍する人材を育成していくことで、若者の県内定着につなげていきます。

奨学金返還額の一部を助成する制度については、これまでの枠組みに加え、県内での居住及び県内産業への就業等を条件とする枠組みを創設する等制度の充実を図り、より多くの若者が県内に定着するよう取り組んでいきます。

#### 【いただきたい意見の要旨】

県内高等教育機関卒業生の県内就職に向けて、景気動向が不透明である中、目標達成への効果的な取組について、ご提案等をいただきたい。

## 2 県内高等教育機関への県内からの入学者について

【22701】県内高等教育機関の魅力向上・充実

活動指標：県内高等教育機関への県内からの入学者の増加数  
令和元年度 目標値 200人 実績値 12人  
目標達成状況 0.00

### 【現状】

全国的に地元大学に進学した学生の地元就職希望の割合は高い傾向にあることから、若者の県内定着を推進するため、県内高等教育機関（大学、短期大学、高等専門学校）への県内からの入学者の増加数を、平成27年度の2,677人を基準として、200人増加を目標に取り組みましたが、実績値は2,665人と目標に達しておらず、若者の県内定着は厳しい状況となっています。

例年、県内入学者が多い県内短期大学において、定員を充足していないことが、県内入学率が伸び悩んだ要因の一つと考えられます。

### 【これまでの県の取組】

県内高等教育機関の魅力の向上

「高等教育コンソーシアムみえ」において、他の高等教育機関の授業科目を受講した場合、単位が認定される単位互換制度を7高等教育機関、43科目にわたり実施するとともに、「三重を知る」共同授業を行うなど、学生にとって、県内高等教育機関各々の魅力がさらに高まる取組を行ってきました。

効果的な広報の実施

「県政だよりみえ」で、若者の県内定着の特集を組み、県内高等教育機関で学ぶ魅力に加え、県内で働き、暮らすための県の支援等を紹介しました。

また、三重県の良さを知り、将来、県内で住む、または三重県を応援してもらうため、漫画を中心とした冊子「地域と高等教育機関の魅力発信冊子『みえコレッ！』」を作成し、県内全ての高校2年生等に配布しました。

高大連携事業の促進

県内高等教育機関の魅力を知っていただくため、高校生とその保護者を対象に、大学等の魅力を紹介するオープンキャンパスの取組に加え、「大学・短期大学での模擬講義」「見学受け入れ」「高校への出張講義」など高大連携の取組を促進しています。

高等教育機関の魅力向上の取組への支援（県版COC）

県内高等教育機関が行う「県内高等学校からの入学者の増加に向けた取組」や「県内企業への就職支援」等、学生の県内定着に向けた新たな取組に対して、財政的な支援を行いました。（平成27年度から29年度までの3年間で、合計8機関9事業を支援）

なお、多くの事業では、補助期間終了後も継続して取組が行われています。

### 【今後の取組】

三重で学び、働き、住み活躍する若者を増やすため、「高等教育コンソーシアムみえ」における高等教育機関相互の連携取組などを通じて、選ばれる高等教育機関としての一層の魅力向上を図るとともに、その情報発信に取り組んでいきます。

### 【いただきたい意見の要旨】

県内高等教育機関への県内からの入学者の増加について、目標達成への効果的な取組について、ご提案等をいただきたい。

# 地域と若者の未来を拓く



県民の  
皆さんと  
めざす姿

県内高等教育機関における学びの選択肢が増えるとともに、各機関における教育や研究、地域貢献の取組が充実し魅力が高まることにより、三重県で学び、働く若者が増えています。

また、県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、地域の課題解決に向けた取組が活発化するとともに、学生と地域との結びつきが強まっています。

## 現状と課題

- 平成 26(2014)年度の本県の大学収容力指数<sup>注1)</sup>は 45.0 で全国 45 位と低く、県内の高等学校を卒業した大学進学者が県内大学へ入学した割合も約 2 割と低くなっており、大学収容力の向上をはじめ県内高等教育機関における学びの選択肢の拡大や県内高等教育機関の魅力向上・充実が求められています。
- また、県内大学の卒業生が県内企業に就職した割合も 5 割を切っており、就職時の若者の県内定着が課題となっています。
- 平成 24(2012)年度から平成 27(2015)年度までの 4 年間、県民力を高める絆づくり協創プロジェクト「県内高等教育機関と地域との連携の仕組みづくり」の中で、地域活動に関心がある学生と課題を抱える地域とのマッチングを進めてきましたが、より一層の促進が求められています。

## 新しい豊かさ・協創の視点

本県で学び、成長したいという希望を持つ若者の希望の実現に向けて、学びの選択肢の拡大に取り組めます。

本施策を推進するにあたり、県内全ての高等教育機関と県とで「高等教育コンソーシアムみえ(仮称)」を創設し、企業、NPO・地域団体、市町など、地域のさまざまな主体とも連携しながら、一体となって課題解決に取り組めます。

## 取組方向

- 大学・学部等の新增設・再編に向けた検討を進め、高等教育機関における学びの選択肢の拡大を図るとともに、全国でも低位にある大学収容力の向上をめざします。
- 学生の確保や学生の県内への定着等に取り組む県内高等教育機関を支援するとともに、県内高等教育機関相互および県内高等教育機関と地域との連携による魅力向上を図るため、「高等教育コンソーシアムみえ(仮称)」の取組を推進します。これらの取組により、県内高校卒業生の県内高等教育機関への入学者の増加を図るとともに、県内高等教育機関卒業生の県内企業への就職率向上につなげます。
- 若者の県内定着を促進するため、大学生等の奨学金の返還額の一部を助成する制度を創設します。
- 地域活動に関心がある学生と課題を抱える地域とのマッチングのより一層の促進を図ります。

# 高等教育機関の充実

政策 II-2 学びの充実  
 主担当部局：戦略企画部

## 平成31年度末での到達目標

県内高等教育機関における教育や研究、地域貢献の取組が充実し魅力が高まることにより、三重県で学び、働く若者が増え始めています。  
 また、学生を中心とした県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、地域の課題解決に向けた取組が活発化するとともに、地域に関心を持つ学生が増加しています。

## 県民指標

目標項目	現状値	目標値	目標項目の説明
県内高等教育機関卒業生の県内就職率 <small>創</small>	49.0% (26年度)	59.0%	県内高等教育機関を卒業し就職した者のうち、県内に就職した者の割合

主な取組内容 (基本事業)	県の活動指標		
	目標項目	現状値	目標値
<b>22701 県内高等教育機関の魅力向上・充実</b> (主担当：戦略企画部戦略企画総務課) 学生確保や学生の県内への定着等に取り組む県内高等教育機関に対し助成を行います。 「高等教育コンソーシアムみえ(仮称)」の取組を通じて、県内高等教育機関の魅力向上・充実を図ります。 若者の県内定着を促進するため、県内の南部地域等条件不利地域に居住すること等を条件に、大学生等の奨学金の返還額の一部を助成する制度を創設します。	県内高等教育機関への県内からの入学者の増加数  (目標項目の説明) 県内高等教育機関(大学・短期大学・高等専門学校)への県内高等学校および中学校からの入学者の増加数	0人	200人
<b>22702 県内高等教育機関と地域との連携の促進</b> (主担当：戦略企画部戦略企画総務課) 地域活動に関心がある県内高等教育機関の学生と課題を抱える地域のさまざまな主体とのマッチングを促進します。	「学生×地域活動」サポート情報局等におけるマッチング延べ人数の増加数  (目標項目の説明) 「学生×地域活動」サポート情報局および県内高等教育機関のボランティアセンター等を利用して地域活動に参加した学生の延べ人数の増加数	0人	1,000人

注) 1 大学収容力指数：県内外からの県内大学への入学者数/前年度に県内高等学校を卒業した者のうち国内大学への入学者数×100。

【主担当部局：戦略企画部】

県民の皆さんとめざす姿

県内高等教育機関における学びの選択肢が増えるとともに、各機関における教育や研究、地域貢献の取組が充実し魅力が高まることにより、三重県で学び、働く若者が増えています。

また、県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、地域の課題解決に向けた取組が活発化するとともに、学生と地域との結びつきが強まっています。

令和元年度末での到達目標

県内高等教育機関における教育や研究、地域貢献の取組が充実し魅力が高まることにより、三重県で学び、働く若者が増え始めています。

また、学生を中心とした県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、地域の課題解決に向けた取組が活発化するとともに、地域に関心を持つ学生が増加しています。

評価結果をふまえた施策の進展度と判断理由

進展度 *	C (あまり進まなかった)	判断理由	県民指標について目標を達成できず、活動指標についても2項目中1項目の達成にとどまったため、「あまり進まなかった」と判断しました。
----------	------------------	------	--

【\*進展度：A（進んだ）、B（ある程度進んだ）、C（あまり進まなかった）、D（進まなかった）】

県民指標						
目標項目	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況
県内高等教育機関卒業生の県内就職率 (創13)	48.9%	51.0% 48.8%	53.0% 48.9%	54.0% 48.9%	59.0% 48.1% (速報値)	0.82
目標項目の説明と令和元年度目標値の考え方						
目標項目の説明	県内高等教育機関を卒業し就職した者のうち、県内に就職した者の割合					
令和元年度目標値の考え方	県内高等教育機関と協議を行い、令和元年度に平成26年度実績から10%増の59.0%をめざすものとして設定しました。					

活動指標		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	
基本事業	目標項目	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況
		22701 県内高等教育機関の魅力向上・充実（戦略企画部）	県内高等教育機関への県内からの入学者の増加数	0人	15人 48人	20人 28人	100人 26人
22702 県内高等教育機関と地域との連携の促進（戦略企画部）	「学生×地域活動」サポート情報局等におけるマッチング延べ人数の増加数	0人	250人 546人	700人 956人	850人 1,159人	1,000人 1,803人	1.00

（単位：百万円）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
予算額等	53	61	40	14	13
概算人件費		18	27	27	36
（配置人員）		（2人）	（3人）	（3人）	（4人）

### 令和元年度の取組概要と成果、残された課題

県内高等教育機関の一層の魅力向上や学びの選択肢の拡大等に向けて、「高等教育コンソーシアムみえ」と連携して、学生が三重への知識・愛着等を持てるよう共同開発した「食と観光実践」、「三重の歴史と文化」などの「三重を知る」共同授業を実施するとともに、7高等教育機関で、43科目にわたる単位互換制度を実施するなどの取組を進めました。しかし、進学に伴う若者の県外流出が続いているため、県内高等教育機関の一層の魅力向上に向けた取組を進めるとともに、その魅力を学生等に伝えていくことが必要です。（創 13）

平成 31 年 2 月に設置された東京大学地域未来社会連携研究機構三重サテライト拠点を活用して、東京大学と連携した様々なワークショップや講演会を開催しました。また、三重大学と東京大学、東員町、県等が参画した研究会が設置され、令和 2 年度から東員町において、「AIと電力データを用いたフレイル検知」の実証実験が行われることになりました。今後も引き続き、東京大学と県内高等教育機関との連携を促進し、県内高等教育機関の魅力向上を図ることが必要です。（創 13）

大学生等の奨学金返還額の一部を助成する制度では、県政だよりやテレビ・ラジオ番組及び関係市町の広報紙などにより制度のPRに努め、支援対象者を 17 人認定しました。今後、若者が県内に戻る流れをつくるのが課題であり、制度の充実を図るとともに、県内外の学生に対して幅広く周知を行い、制度の一層の活用を促す必要があります。（創 13）

県内の産業界、高等教育機関、市町及び県で構成する「みえ地方創生多分野産学官連携推進協議会」のネットワークを活用して連携に結びつくような情報を定期的にメールマガジンで配信し、高等教育機関相互及び分野の枠組みを越えた情報共有などを行いました。引き続き、若者から選ばれるしごとの創出や働く場の魅力向上につながる共同研究の促進など産学官の連携に取り組んでいく必要があります。（創 13）

県内外から留学生 19 人を含む総勢 49 人の学生が集い、第 4 回「大学生国際会議 in 三重」を志摩市において開催しました。アマモ場再生体験、伊勢えび刺網漁視察・体験などを通じて本県の水産業の現状と課題を学ぶとともに、環境問題や地域課題をテーマに討論・交流を行い、参加者の三重県への愛着を育み、成長につながる場となりました。

学生の地域活動への参加を促すため、県内高等教育機関における地域活動を促進する授業やイベントを実施しました。引き続き、地域と学生との結びつきの深化に向けて、「高等教育コンソーシアムみえ」の取組等を通じて、学生の地域活動への参加を促進していく必要があります。（創 13）

- ・学生の地域活動への参加を促進した結果、活動指標「『学生×地域活動』サポート情報局等におけるマッチング延べ人数の増加数」については、令和元年度の目標を達成することができました。
- ・一方で、県民指標「県内高等教育機関の卒業生の県内就職率」の令和元年度（令和 2 年 3 月卒業）の実績については、48.1%と目標に達しておらず、若者の県内定着について厳しい状況が続いています。学生の就職活動の時点では、中京地域の経済状況が活況であり、近接県の中には、本県以上に有効求人倍率が高水準で推移している県もあり、県内高等教育機関においても県外企業からの求人が多い傾向となっているため、県内就職率が伸び悩んだことが要因の一つと考えられます。
- ・若者の県内定着に向け、引き続き県内高等教育機関の魅力向上や県内企業の魅力発信などに取り組む必要があります。

#### 【第三次行動計画に関連する施策】

施策 2 2 6：地域の未来と若者の活躍に向けた高等教育機関の充実

\* 「創 番号」のついた項目は、「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な取組方向のめざす姿の達成に資する主な取組であり、検証レポートにも記載しています。